福商 歴史・文化シリーズ

# 「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」活動報告

「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会(略称:ふくふく懇)」(事務局=当所)は、「『福岡・博多の歴史・文化を活かしたまちづくり』に関する15の提言」に基づき、福岡城天守に関する最新の学術研究の成果を吟味・検討した上で、必要に応じ復元に関する提言を関係各所に行うことを目的として、令和6年3月に発足しました。これまでの計6回に及ぶ専門家・有識者による検討を経て、

**① 福岡城天守は江戸時代初期にいったん建築されたが、その後に破却されたとみて間違いなく、それを否定することは難しい**

**② 天守の規模・構造は姫路城と同等の五重六階地下一階、高さは約26mと推計される**

**③ 外観は黒を基調としていた**

との結論に至りました。

ふくふく懇は、地域の歴史・文化を次世代に伝えるシンボルとして、「福岡城天守の復元的整備」を迅速に進めることが適切であるとし、天守復元に肯定的な意見が多かった市民アンケートの結果も踏まえ、以下のとおり提言をとりまとめました。

## 提言の内容

(1)官民一体となったさらなる調査について
- ❶福岡城天守の全容解明に向けた史資料収集及び分析
- ❷福岡城天守台及びその付近における確認のための発掘調査等

(2)福岡城に対する市民意識の向上について

(3)市民が歴史を考える機会の創出について

(4)文化庁の復元基準の柔軟な運用について

(5)「国史跡福岡城跡整備基本計画」の官民一体となった推進

提言の詳細はこちら

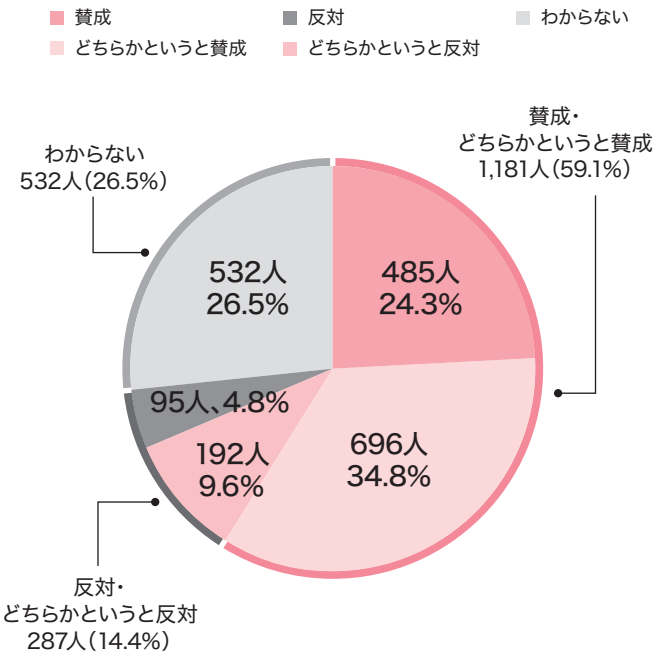
▲福岡城天守台と市街地の眺望(提供:福岡市)

日本の城下町において、城の中核をなす天守は地域の歴史を次世代に伝え、市民の郷土愛を醸成するうえで実に大きな役割を果たしている。福岡市の将来を考えたときに、市民、とりわけ次代を担う若者たちに、郷土に対する誇りと愛着を抱いてもらうことが極めて重要であり、こうした見地から、地域のシンボルとして福岡城の天守を復元することには大きな意義があると考えられる。

ふくふく懇では令和6年9月、福岡城跡の保存・活用や天守の復元等について市民アンケートを実施した。その結果、天守復元に「賛成」「どちらかというと賛成」の合計が59.1%と多数を占めた。「反対」「どちらかというと反対」は14.4%、「わからない」が26.5%であった。「わからない」を除けば、賛成派が80.4%を占めた。

もとより、天守復元については慎重な意見もあるが、積極的な反対は必ずしも多くない。これからは、様々な意見や指摘に対して丁寧な説明とそれらを踏まえた対応を行うことによって、市民の納得を得られるような取組みをしていくことが重要である。そうした取組みは、天守というものが持つ、まちづくり全体の中での役割の大きさ(地域のシンボル)やその歴史教育的意義に鑑みれば、可能な限り速やかに進めていくことが重要である。なお、民主主義的プロセスを経て天守の復元が決定された暁には、機運が盛り上がり、市民挙げての目標になっていくことが望ましい。

引き続き、福岡商工会議所では、当提言を関係各所・福岡市民に示し、福岡城天守の復元における議論や行動が活発になるよう活動してまいります。




「わからない」を除けば
「賛成」「どちらかというと賛成」が
80.4%